

男子生徒トイレなかったからな。女子の学校やったから

語り手 市木徹（元PTA会長）

聞き手 上野 今日香

*

現在の生活

— 早いんですけど、始めても大丈夫ですか。

はい。しましうしましう。

— お願いします。まず、今はどういう職業というか、どういうことをされてるか聞かせてください。

今は、東近江の市会議員です。元々、建築設備の設計をやってんのよ。本職はね。設計業をやってるんで。たまたま、三十年ほど前に滋賀県立大学っていう大学を作るのに、三年のプロジェクトやったんやけども、その責任者として、野洲から通うのが遠かったんや。そのまま、近いところ探してつい住み着いてしまった。そこで子供育てたし、たまたまその地元の小学校、中学校行かして、立命館守山の一期生として、娘入れて、一番下の娘が立命館守山の一期生に入ったという関係で、子供はもう、当然、三十超えてるからね、一期生やから、三十、もう今年四になるんかな。

— 中学から入られたんですか。それとも高校の時からですか？

その頃は中学校なかったから。

— そうなんですね。

一期生の時は二期生から中学校を入れたからね。

— なるほど。あの、市議会議員さんって、普段されてる他の自分のお仕事の休みの日とかに、議会のお仕事をする感じなんですか。

議会の方が優先だから、議会の休みの時に自分の仕事をする。だから、もうなかなか兼業が難しいんで、専業でやらないとなかなか難しい、そういうことやってるので、子供はもう大学も卒業してだいぶになるんやけども、おっちゃん二十年間ずっと立命館守山からまだ卒業できてないわけよ。ずっと、PTAやってて、一期生のPTA会長やって、その後、教育後援会って言うたんやけど、その当時は、教育後援会の副会長、会長までやって、教育振興会に名前を変えて、教育振興会でもずっと役員やって、会長までやってたんやけども、議員になったんで、議員の仕事として地元の入学式やらどうしても出ないかんもんで。立命館守山のその入学式と同じ日や、四月八日とか十日やから、どうにもならんの。

だから、会長から副会長に降りた。それで、現在に至る。

— 今、じゃあ、後援会の副会長で、ずっとされてる後援会ってどういうことされるんですか。

— ということって、様々な企業さんからの応援のお金もあるし、そういうその学校を良くしようというその予算があるわけよ。その中で、例えば、じゃあうちの後援会の方から、振興会の方から、優秀な生徒さんは表彰しようとか、クラブ活動で全国行くんやったら激励金出そうやないかとか。また、例えば家庭の事情が急変して、例えばそのお父さんが商売をやってて、会社をされてて、会社が急にもう傾いてしまったと、授業料がどうしても払えないよねって。

でも、子供さんは優秀やから、なんとか学校を卒業させてやりたいという時には、じゃあ、後援会の方から学費を免除するってね、援助をしてね、それを、全額援助するとか、半額免除するとか。

—なるほど、
—そういうことやってるわけで、ご兄弟で入られる方もいらっしゃるし、中にはやっぱり双子ちゃんが入ってくるっていうケースもあったんで、じゃあ、それはちよつと家庭的にしんどいやろと。じゃあ、ほな、後援会、教育振興会の方で応援しようとかとか。

—あーそういうのもなんですね
—うん、そういうのも色々応援してるから一番金額的に多いのは、その各それぞれの部活動、クラブ活動で、やつば近畿大会以上の全国大会行かれるチームに関しては、その遠征費、要するに医療費とか宿泊費とか大会に必要な経費を幾分か負担しましょうっていうことで。
—あーなるほど。

*

学生時代

—話変わるんですけど、生い立ちみたいなのを聞きたいんですけど。
—うん。

—中学とか高校とかって、どういう感じに過ごされてきたんですか。

私はね、とにかく、どう言うたらええかな。ドラえもんの世界で言え。うん、一番近いのはやつぱりジャイアン。

—へえ。

見た目もジャイアンやけど、性格もジャイアンやし。だから、物事を決めて動くっていう仕事をやってきたし元々。だから設計、建築設計やってたんで、現場監督もやってたからね。

この建物もあるよ。おっちゃんが現場監督して。そこ（事務室）出ていただいたら、文字盤に（事業関係者）名前が全部彫ってあるでしよ。あれは、このキャンパスを作る時に、現場監督した人間もおれば、作業員もおれば、職人さんもおればっていう名前が全部書いてるわけ。この学校を作った時に、これだけの人にお世話になりましたよっていう。—へー。じゃあ、名前彫られてるってことですか。そうなんですね。また見てみて。

—はい、見てみます。

—そういう形で。まあまあ、子供の時からリーダー的な存在やったかもわからんね。

—なるほど。高校生とか中学生の時って。どういうクラブ活動とか、課外活動とか、どういうのされてたんですか。

活動はね、ほとんど真面目にやってなかったな。一生懸命やったのは、生徒会やクラブにも所属してたし、化学もやったし、天文もやったし、物理が得意やったからね。だから、そういう勉強系のクラブをやったり。あとは、動くのは当然だから、柔道、剣道、ぐらいかな。それはあんまり自信持って言わないわ、サボってたし。

—それは全部好きでやったんですか。色々興味があつてみたいな。

—そうやね。理科系がやつぱり好きやったからね。そのままだから、物理の世界に入って、設計業や。こっちは建築の建物の設計よりも、どっちかというとの、水とか空気とか、そういう熱力学とか水力学っていうのが専攻や、専門なんで。例えば、蛇口から何気なく水を出してるんやけども、じゃあ、どれぐらいの圧力で、どこまで送ったらどれだけの水が出るっていうとか、この部屋には何人で会議をするから、暑い夏にどれぐらいの能力の冷暖房が必要やとか。

—そういうのもわかるんですか。

—そうそう、このエアコンも全部おっちゃんが設計して、全部あれ、熱量計算して。

—それも物理なんですね。

*

平安女学院から立命館守山への道のり

—そうそう。だから、同じように、キャンパスは立命守山がオープンした時に工事をやってるわけ。ここは工事中やから。ここは元々、平安女学院という大学があつて、大学のキャンパスやから、高校生、中学生が勉強できるような教室がなかった。

—大学やから、講義を聞くところはあるんやけども、各それぞれの教室っていうものがなかったから、新しく、高校棟を立てたり、新しい体育館を建てたりで、全面改修でやってたんやけどね。

—一年間は、工事中で、一期生は、そういう苦しい思いをしながら、立命に入ってたながら、吹きさらしの校舎で、隙間風が入ってくるような、そんな校舎で、よう我慢できたと思うよ、あの子ら。みんなにとつて、一期生の大先輩、俺は尊敬に値するぐらいの、子供たちやったよ。みんな真面目で、我慢して、まずね、男子生徒トイレなかったからな。女子の学校やったから。もうそれぐらい、やっぱ苦労した。

—うん、そうですね。

—古い校舎やしね。廊下っていうのはなかったし。教室の出入り口を開けたらすぐグラウンドで、冬なんて、開けたらもう冷たい風が入ってくるし、そんな環境やった。いずれにしろね、当然ながら、西園寺公望が開いた時代からあるから古いんやけども、このやっぱりキャンパスがで

きて、この地で開いたのはやっぱり立命が新しいから、この地で迎え入れられたっていうのは非常に大きいよね。

—だから、楽しみながらの人生へ。いろんな関係を大事にして、こうやって二十年間も役員を離れないっていうのもうん。楽しいからやるな。楽しくなかったら離れるやん。

—それに多分繋がると思うんですけど、今までの人生で大切にしてきた価値観とか信念とかってありますか。

—働くことによって何かに繋がるんやろうね。誰かのためになるかもわからんし、誰かの足を引っ張ってるかもわからんけども。自分の生きる道として価値観を見出すことかな。だから、議員やってるけど、人様のために働いてますよ、とは私は大きい声では言わん。働いて働いて、働き倒してるけども、あんまりそういう人のために働いてるってゆうのは意識しない。

—うんうん。

—意識する方がおかしいやろし。自分として精一杯生きてたら、本音言えちゃうやん。別にかっこいい言い方じゃないよ。

—はい。

—ただね、中学校も生徒会長やったり、高校も生徒会長やったりで、働き出したら現場監督やったり。常にだから、人の上に立ちたかったんやろな。人をコントロールしたかったんかわからん。こうやって議員になつて議長二回ほどやってるんやけどな。やっぱりそうやって、トップを狙ってたんかもわからんし。出世欲が人一倍強いのかもわからんけど。自分ではあんまり意識したことないけどね。

—中高の話戻っちゃうんですけど、中高の生徒会長になろうと思ったんですか。

中学校は、推薦されたかな。高校も一緒やったな。一年生からずっと生徒会役員をやってて、三年生になったら自動的に会長やった、そんな感じ。

—やっぱり大人になったらもっと勉強しとけばよかったってなるもんなです。

それじゃみんなそう思うんちゃう。

—自分も結構今、勉強とかよりは部活とか遊びとかにしちゃうんですけど、でも周りからはもっと勉強しときみたいな。

絶対に勉強しとくべきだから、勉強っていうよりも知識をつけとくべきだね。様々に世の中に通用する知識ね。語学力も一緒。だから教科書に載ってるような英語なんて覚える必要ない。

もう、本当に。だからそれを平気で、感性で喋れるようになるべきやなと思うわ。おっちゃんの英語、全然ダメやから。やっぱ英語喋れたらなと思う。

—なら英語もつと頑張ります。

英語頑張るときや、他の言葉も喋れるて。

—うんうん

向こうの言葉で挨拶を、言いたいわけよ、でももうペーパー見ながら、一生懸命勉強して、でも、それで、なんていうの、一言相手側の言葉を喋れるとね、もうそこでがっちりと握手できるわけよ、最初は。だから、握手しててもご挨拶だけなんや。

でも、こっち側から近寄ろうとして、下手な中国語でも下手な英語でも喋ってるね。やっぱりそこでコミュニケーション取れるし。そういうところでやっぱりきちつと話ができて、次出会う時にはもう何年ぶりだ

ねっていう話から入る。そういうことをしようと思うと、やっぱり語学力な。語学力は絶対必要。

—あの自分の話になるんですけど、将来の夢とか全然まだ決まっておらず、やりたいこととかすぐ決めた方がいいとか、そういうのってありますか。

決めなくていいよ。そのうち決まってくる。

—決まりますかね。

うん。だから、そのキャリアで生きようという風に。決めるというのは、大学入ってからかな。

実際に仕事やり出して、キャリアで生きようと思ったら、キャリア生きりゃいいし。自分はやっぱり家庭に収まろうという風にやったら、家庭に収まりし、その時にはやっぱり旦那さんが見つかるやろうし。やっぱり働かなくても家庭に収まるだけの旦那さんが収入がありや、一番言うことないし。キャリアで行けるんやったら、仕事はね、お互い家庭を守らなあかんし、しんどいけども、二人が分担してお互いに家事をやりながら、お互いに働いてやれるし、私は、女性は家におれっていう感じではない。

—うんうん。

だから、将来何したいかが見つかるまで、その時が来たら選べばええねん。そんでええんちゃうかな。大学の時にはね、様々の勉強しながら遊んで、様々なお友達作って、そのうち、大の親友っていうのが見つかるやろうし、人生を通じた親友が見つかるやろうし、大恋愛したいと思う。女性同士でもええで。女性同士でも、大恋愛して、やっぱりやっぱり一生の友達になると思う。お互いのことをやっぱり好きになつて、お互いのことを妥協して。

全ていい時やないやん。妥協もせんならんし、大恋愛もせんあかんし、上手に。

—うん。

ついたり離れたりしながら、大の親友やと思う。べったり一緒に夫婦でも無理やって。適度な距離を保ちながら、同じ方向に歩いていくっていうのが大事。そういう風になってくれたらええんちゃう。

—はい、ありがとうございます。

うん。

*

人との繋がり大切に

—じゃあ、最後になんですけど、今のその若い人たちとか、自分たちみたいなその夢探してる高校生とか、なんか逆にもう夢決まってる、なんかこうなりたいと思う人たちに、なんか、その市木さんが思う、なんかこれ、大切にしたい方がいいよみたいなありますか。

今しかないから、今を精一杯生きたいやんって。俺が一番嫌なのは、無駄な時間を過ごしてるやろって。本来、その人との接点を大事にせんあかん時期やのに、お前はなんでそんなにね、スマホばかり見てるんだって。電車の中でもそうや。気遣いができないな、スマホ見てたら。自分が座ってて、お年寄りが来たって、妊婦さんが来たったって、わかんないやん。それは一つ接点失ってるんちゃうって。人として。それはもったいないと思うわ。だから、別に見るなとは言わないけども。その周りの気遣いをせずに、自分の殻に今の子は閉じこもってるから、あんまり良くないよって。自分を大切にすると同時に、その人との繋がり時間を遮断したらあかんよってというのが皆さんに言うこと。その周りを見て、周りに親切にしないって。

そんなこと言ってる自分も、やっぱり疲れて座ってんねんから、変わりたくない時もあんねんから、そりやそんでええって。やっぱり自分よりやっぱりこの人の方がしんどそうやなっていう心遣いができるかもわからんやん。携帯見てイヤフォンつけてずっとそこへ没頭してるわけやろ。そしたら周りが見えへんやん。周りが見えないということは、世の中の接点を遮断してるわけや、全て。

—確かに。

情報かってそうや。自分で手に入れようとせずに、垂れ流しで出てくるようなSNSばかり信用してしまうねん。でたらめばかりやで。面白おかしく書いてるだけで、本当のその情報ってどこにあるかっていうその作業をしてないやん。

—はい。

だから、それもそうやな。接点を切ってるんやね。なんか知らんけども、耳に入ってくるっていうだけ。自分で探そうとしない。

自分で接点を切ったらあかんねん。たまたま電車に乗ってるって。どっから来たのって。うん Where are you from だけやろ。ほな、向こうかて英語で話しかけられたら、向こうかって答えてくれるやん。

—あー確かに。

うん、そう。そういうもんやと思うで。やっぱり英語の勉強も、自然とできるやろし、接点を切らないこと。

—ですな。

うん、やっぱりちよつと親切にしてあげたら、おばあちゃんが、あんだこの高校や？ って、（聞かれたら）立命館守山ですって自信持って言ってくれたらいいし、それがやっぱり繋がってるいう、あなたにと

つては、そのおばあちゃんとの繋がりがわからんけども、そのおばあちゃんにとつてはな大きいねん。

―はい。

守山つて学校行つとつて、ええお嬢さんやつてな、こういう繋がりが、学校長なり学校の先生なりが教えなあかんっていうのが、あなたのためじゃないって、回り回って学校に返ってきて、学校に返ってきたらまたあなたに返ってくる直接のことなんて要求したり求めたりは今ほせんでもいいかな。とにかく接点を切つてしまえば自分は成長できないということかな。難しい話なんでもない。おつちゃん、そんな頭ええことない。

―めっちゃなんて言うんやろう。なんか自分のためになります。そんな話。

だから、学校もね、この学校も、一応、おつちゃんが大好きなのは勉強だけじゃないよ。

今の偏差値でさ。六十、七十超えたかな。七十から七二ぐらいの間の偏差値を持つてるんやけど、じゃあそれだけで自慢できるかって言うたら。俺はできないと思う。頭頭良くても、じゃあこの地で認めてもらえるかって。そっちの方が大事やと。

―確かに。偏差値だけじゃないです。

偏差値だけじゃないなあ。あそこの学校、頭もいいし、子供さんもね、ちゃんとしてるし。やつぱりそういうのがやつぱり大事やと思う。だから、立命館守山に行きたいっていう子供が増えてくるやろうし。―うんうん。

そうなってくると、立命は喜ぶやろうし。で、という原稿書いてくれるんや。二十周年に寄せて。

―なんかでも。ほんまにこのお話したことを。そのまま書き起こしてみたいな。

―嬉しいです。

とにかくね、私が力込めて言いたいの、一期生がおらなかつたらこの枠は成り立ってない。これだけはもうはつきり力説しとくわ。あの頃はよう頑張れたし、よう我慢しとつた。一期生や、それは。だから、一期生の卒業式に私がたまたまPTA会長やから食事も山ほどもうたけど、もうそこで全て、皆さんに物語ってるし、語ったつもり。

―うんうん。

これ、立命館守山が作れたと未だに持つてる。うん。だからその在校生は一期生を自慢してほしいな。自分たちのこんな先輩がいるんやでつて。それはね、四十代に聞いたらわかるわ。どんな先輩か。俺が言うてる意味わかるわ。

―はい。

うん。その基礎があつて、今の学校が。今の学校があるためには平安女学院の土台があつて、平安女学院の土台は何やったんや。

―田んぼとか？

やつぱりこの土地を田んぼやったん。お米作ってたん。お米作るよりは人を作る時代が必ず来るつて言つて一生懸命教えてくれてはつたら、三品さんとか山川教育長も、元教育長が一生懸命動いてくれたかも。その前に何があつたか。守山女子高があつた守山市守山町の時代。そして、その前の呉服店さんが、これからは女性との、女性の方も若い子も働くだけやなしに、中学校上がったらみんな昔働かはつたからな、そういう時代やないと。

―確かに。

手に職をつけて勉強する時代であって、その時代からやっぱり脈々と、やっぱりこの守山の地にはそういう勉強という意味のものが脈々と流れてるっていうことだけは強調しとくわ。

—はい。

ちよつと歴史紐解いたけどさ、そこはもう一回勉強して、どういう歴史があつたか、どこでどういう、様々な障害があつたんやけども、全て超えてきたか。それを超えていたからこそ今の二十周年を迎えられるんだっていうことだけは、ちよつともう一回整理してくれる。

—はい。自分なりに。はい。

あんまり、ちよつとおつちゃん力説しすぎやから。

—全然です。ありがとうございます。最後に写真だけ撮っても大丈夫ですか。

いいですよ。

—お願いします。

【感想】

今回の聞き書きでこの自分が通っている学校なのに、知らなかったことや歴史などを聞くことができてもっと自分で知りたいと思えた。一期生のおかげで今自分たちが苦労なく学生生活を送れていることを教えてもらい、もっと感謝して立往生として過ごしていきたいなと考えた。また人との接点を大事にすることで回り回って自分に返ってくるよと言っていたので、それも忘れずこれから過ごしたいと思った。



右：聞き手 上野 今日香

左：語り手 市木 徹さん